

真の多文化共生社会を目指して

2020年に1億2615万人だった日本の人口が50年後に8700万人になると予測されています。特に東北地方は、人口減少が他の地域より急激に進むと言われております。最近、こうした人口減少問題を「静かなる有事」と表現するようになってきました。急激な人口減少が予測されている中でしっかりと次代への布石を打つことは、県政を預かる知事として大切なことです。そこで県は、出産・子育てをお手伝いする少子化対策に力を注ぐだけでなく、外国人にも宮城に安心して住んでいただける環境づくりに取り組むことにいたしました。具体的には技能実習生や留学生を積極的に受け入れ、地域の皆さんと一緒に生活できる環境を整えようとするものです。私は昨年ベトナムに、そして今年にはインドネシアを訪問し、両国の政府と受け入れに関する覚書を締結いたしました。政府が認める送り出し機関(日本に来る前に日本語や介護などの研修を行う機関)を通じて真面目でやる気のある外国人をできる限り受け入れたいと思います。また、順次、公立日本語学校を大崎市と石巻市で設立してもらうよう調整中です。言葉の壁、文化の壁、食べ物などの壁、宗教の壁など課題は種々ありますが、外国人の皆さんと共存共栄できる社会、真の多文化共生社会を作ることが人口減少を克服するためには何より重要だという信念を持って取り組んでまいります。

宮城県知事 村井 嘉浩



【写真の説明】**1** 地中熱ヒートポンプシステム **2** ハウス内の様子
3 施設で収穫したイチゴと小林さん **4** イチゴの収穫を行う森川さん

第14回

自然のエネルギーで 環境に優しい イチゴ栽培

株式会社山元ヒルズファーム(山元町)

本シリーズでは、県政運営の基本方針「新・宮城の将来ビジョン」において重要な視点として位置付けている「人づくり」「地域づくり」「イノベーション」「SDGsの推進」に焦点を当て、各分野で魅力ある活動に取り組む県内の企業・団体などを紹介しています。

ページ

新・宮城の将来ビジョンシリーズ
2 PROGRESS ~ともに創ろう、躍進する宮城の未来~
株式会社山元ヒルズファーム(山元町)

特集1
4 DXで「みやぎ」が変わる!

特集2
8 笑顔咲くたび伊達な旅
2023年 秋・冬観光キャンペーン

県政ニュース
10 みやぎ環境税
みやぎの豊かな環境を守り
次の世代へ引き継いでいこう

県政ニュース
12 これからも安全・安心な水をお届けするために
「みやぎ型管理運営方式」

県政ニュース
14 みんなで考えよう 犯罪被害者支援
11月25日から12月1日は「犯罪被害者週間」です

おいしいものがたくさん!
15 まんぷくみやぎ

16 7つの地域から虹メール

18 お出かけガイド

20 みやぎのふるさと通信(大崎市・大和町)

21 県立施設インフォメーション

22 県からのお知らせ

みやぎの人口(令和5年8月末現在)

住民基本台帳人口 / 2,246,622人(前年同月比-15,809人)

男 / 1,095,734人 女 / 1,150,888人

世帯数 / 1,043,291世帯(前年同月比+8,008世帯)

今号の表紙

秋・冬観光キャンペーン いざ出陣!

「いま、したい 仙台・宮城の旅。」をテーマに、コロナ禍で落ち込んだ観光需要の回復に向け、この秋・冬に行われる観光キャンペーン。キャンペーンの成功を祈念して、国宝瑞巖寺で行われた出陣式に駆け付けた伊達武将隊の皆さんです。キャンペーンの詳細は8・9ページをご覧ください。

太陽光や風力などとともに、自然環境を生かした再生可能エネルギーとして注目を集める「地中熱」。今回は、その地中熱を利用してイチゴ栽培に取り組む株式会社山元ヒルズファームの小林幸男さんと森川幸子さんにお話を伺いました。

― 就農の経緯は? ―

もともと私(小林さん)は、岩手県で建築関連の仕事に長年携わっていましたが、数年前に急な病気で以前のような仕事ができなくなってしまう。それでも、ものづくりの仕事は続けたいと考えていた時に、イチゴ栽培に出会いました。このイチゴを多くの方に届けたいの思いから、49歳で就農を決意。山元町に移住し、イチゴの栽培技術を習得しました。

― 地中熱の利用について ―

ハウス栽培の暖房は重油を使用したボイラーが主流でしたが、建築業界で培った経験から、ク

り、このシステムの導入効果は非常に高いと感じています。

― 他に意識している取り組みは? ―

食品ロスの削減

出荷するイチゴと味に遜色ないものの、小さすぎて廃棄されていたイチゴ(キ) (200g、250粒)を「お腹いっぱいいちご」として手頃な価格で販売したところ、大変好評でした。今後も規格外品の商品化などで、食品ロスの削減に取り組んでいきます。

持続可能な農業経営

現在、イチゴの他にも、ブルーベリーやイチジクなどを栽培しています。イチゴだけでは、労働量のピークが収穫時期に集中し、雇用が安定しないため、一年中作物が収穫できる仕組みをつくることにより、経営や雇用の安定化を目指しています。

農業は担い手不足の状況にありますが、安定した収入が得られ、魅力や可能性のある職業だ

リーンなエネルギーである地中熱に注目しました。試行錯誤を繰り返して、「地中熱ヒートポンプ」を活用したクラウン温度制御システムの導入が実現しました。導入に当たっては、県の「みやぎ二酸化炭素排出削減支援事業補助金」を活用しました。

ヒートポンプは、空気中などから熱を集めて、大きな熱エネルギーとして利用する技術です。当社で導入した地中熱ヒートポンプは、熱源として、井戸からくみ上げた地下水を利用します。地下水から取り出された熱は、ヒートポンプで熱交換され、栽培棚のチューブに流れる水を介して、イチゴの生長点であるクラウン(株元)を直接加温・冷却し、花芽の分化や成長を促しています。

地球温暖化により、イチゴの栽培環境は変化してきていますが、地中熱は年間を通して温度が一定のため、空気熱を利用するよりも熱効率が高く、より少ないエネルギーで、季節を問わず安定した温度管理が可能です。このため、二酸化炭素排出量の大幅な削減にもつながっております。

― 今後の展望は? ―

農業を通じてこの地域のにぎわいを創出していきたいです。イチゴだけでなく、一年中おいしい果物が収穫できる環境をつくり、多くの方が訪れ、自然に触れ合い、笑顔になれるような農園を目指します。

また、地域の方々や、農業以外の分野の方々との横のつながりを広げ、地域の魅力向上につながる新たな取り組みを展開していきたいです。



株式会社山元ヒルズファーム
代表取締役 小林幸男さん(右)
取締役 森川幸子さん(左)